

美術科授業案

日 時 平成 27 年 10 月 23 日 (金) 6 校時
生 徒 3 年 A 組 男子 13 名 女子 21 名 計 34 名
授業場 美術室
授業者 更科 結希

1 題材名 「Remake-Restyle」A 表現 (2), (3), B 鑑賞 (1)

2 題材について

(1) 題材観

2014 年の国立教育政策所がまとめた 21 世紀型能力の指針の中で中心に据えられている「生きる力」の定義には、これからの子どもたちに必要なのは、社会がいかに変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動しよりよく問題を解決する資質や能力とし、知識の習得だけでない力の重要性が述べられている。21 世紀型能力を支える理念として米国の 21 世紀型スキルがある。そこには、子どもの思考の方法として創造性とイノベーション、批判的思考、問題解決能力の育成の重要性について触れられている。それは、知識基盤社会において複雑な問題を解決するため、情報の伝達、共有、利用、環境の変化に即して適応や革新、新しい知識を作り出すための能力を育てるために必要であると考えられているためである。

美術科の学習指導要領においては、表現意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見つけ出したりして、更に美しい、面白い表現を創出する技能を伸ばすことの大切さについて触れられている。特に第 2 学年及び第 3 学年においては、様々な表現に関する経験を元に、より独自の表現を目指して多様な表現方法や表現技法の追求が求められている。これは、新たなものを生み出すための創造力が美術の授業において重要であり、そのための基礎力の育成が必要であると捉えることができる。そのためには、表現する過程の中での様々な経験、資料や知識などの豊かな裏付けと創意工夫への主体的な活動が前提となるだろう。また、真実を見つめることや新たな価値を自ら発見しとらえていくことが大切であると考えられる。

以上のことから、本題材においては表現分野において、新たな価値を生み出すための構想と表現を重視した授業を構成していく必要があると判断した。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

本題材では、既存の使われなくなったものを加工して新しい価値を持ったものに生まれ変わらせる表現活動を通して、発想や構想する力や意図にあった表現を追求する力の育成をねらいとしている。

大量消費、大量生産の社会の中で、物はいくらでも代わりがある。しかし、代えられないものが存在することも確かだろう。使えなくなってしまったものに新しい価値を与え、新しいものを生み出すことを本題材では

「restyle」とし、そのための手法として「remake」を使っていくこととした。

【研究の視点】

「やるべきことの納得」に関わる手立て（授業構成）A

本題材では、やるべきことの納得のために関わる手だてとして、鑑賞した作品から発想の着想に関わる思考を学び、それを生かした表現過程が行える授業を構成する。

まず、表現の対象となる「使われなくなったもの」はこれまで各家庭で使ってきたものである必要がある。「もの」への愛着や元々の使われ方について考える段階を経て、それをリメイクし、新たな価値を持たせる。この過程が、生徒にとってやるべきことの必要感を生み出し、納得につながると考える。ものに新たな価値を与えるためには、鑑賞作品での作者のねらいを捉える必要があり、それが本題材を支える考え方となる。本題材では、この新たな価値を与えることを「restyle」と表し、新たなスタイルを持ったものに変化させていくイノベーションの思考につなげていきたいと考えた。

「やりたいことをみつける調整」に関わる手だて B

手だて B は、表現する過程で既習事項を生かし、批判的に見る場を設定することとした。批判的に見るためには、既習事項が身につけていなければならないことと、作者のねらいを理解して見る必要があるとされる。6月の実践では、批判的に意見をのべる交流の場を設定し、造形要素が他者に与える印象について意識させてきた。この造形要素が与える印象の認識だけでは、「思い描いたことが実現しない」生徒の改善には繋がらないと考えた。本授業では更に、材料の特性や用具の機能（既習事項）について再確認し、具体的にどのように表現していくことが必要かについて触れるような批判的な意見交流の手だてを講じていく。

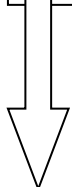
この手だては、「表現したいことをみつけ、それを実現するために、試行を繰り返す」姿を現出させるため、構想段階において実施する。

3 小中連携による研究とのかかわり

(1) 小学校の題材との関わり

本題材は、様々な発想をもとに、あらゆる素材の経験や道具の扱いについて学ぶ小学校での学習をベースとしている。これまでの美術科の授業で多く実践されている一つの素材で同テーマの表現をするのではなく、発想や構想に応じた素材を扱い表現する学習とした。小学校における造形遊びに始まる学習を経て、素材や主題に応じた表現の学習で基礎力を育成し、中学校においては更に表現の効果を考え学習していくことで、表現したものの価値を見だし取り組む姿へと繋がるだろうと考えている。

本題材の小中学校における関連題材	培われる力
小学校における関連題材 小学1年「いろいろぺったん」(造) 2年「大好きなことからもの」(造) 3年「自然からのおくりもの」(造)「虫さんランド」(絵) 4年「物語の世界」(絵) 5年「タワーをたてよう」(立) 6年「身近な環境を生かして」(造) 「自分らしい表し方で」(絵)	造形遊び・絵や立体、工作に表す題材において、素材や道具の扱い方や主題の生み出し方について基礎的な力を育成し、様々な材料を扱い自らの表現したい作品に近づけていく。



中学校における関連題材 中学1年「メッセージを送る」(表) 2年「peace piece door」(表) 3年「Answer Art」(表・鑑)	既習事項の素材を扱い、表現効果をもまえ、発想・構想において試行しながら自らの表現したい作品に近づける。
--	---

(2) 小学校9年間で図工・美術科で育む「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒の育成」の姿

小1	2	3	4	5	6	中1	2	3
表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的な能力を獲得し、表現していこうとする姿								
表したいことにあわせて、造形要素の特徴や美しさを感じ創造する姿								
形や色の持つ意味を理解しながら、自らの表現のための試行をすることで、価値を作り出していく姿								

4 題材の目標



主体的に鑑賞作品から発想の仕方を学び、素材の特性を生かして表現の構想を練り、自分の表現意図に合う工夫をするなどして創造的に表現し、独創的・総合的な見方や考え方を培う。

5 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア 鑑賞作品から、作者の意図や独創的な表現の工夫などに興味を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 イ 感じ取ったことを基に、イメージを広げて表現することに関心を持ち、主体的に表現の構想を練ったり、材料の特性を生かしたりしようとしている。	ア 素材の特性を考え、単純化や省略、強調、材料の組み合わせや美的感覚を働かせた表現の発想・構想を練ることができる。	ア 材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えながら創造的に表現している。	ア 作者の意図と創造的な表現の工夫、造形的な美しさなどを感じ取ることができる。 イ 作品の見方を深め、自分の価値意識を持って批評しあうなどして、美意識を高め幅広く味わうことができる。

6 題材指導計画 (全8時間)

	学習事項	主な学習活動・手だて	評価			
			関	発	創	鑑
手だて A						
1	○remake-restyle 鑑賞を通じた発想や表現の工夫について学ぶ	○remake と restyle についての考え方について学ぶ。 ・使い捨てが多い社会や、思入れがあっても使うことのできないものに新たな価値を与えることができないかについて学習する。 ○鑑賞作品から、作者の意図や表現を考える。また、同じ材料を使いどのような restyle があるか考える。	ア	ア		ア

		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>具体的な作者の意図や表現を考えるための視点 作品 使用された素材（元々の素材の意味） remake されたあとの形（新たなスタイルの意味） 素材の活用 使用された道具</p> </div> <p>《鑑賞作品例》 使用される素材と道具 → 新たに生まれ変わった形</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>			
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>remake するための素材の活用や道具の性質、表現の効果について学び、restyle のための構想を練る</p> </div>	<p>○様々な材料の活用方法、これまで学習してきた表現方法にはどのような意味や効果があったか確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>既習事項を元にした表現方法や効果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩-色によって感じ取れる印象の違い ・質-素材通しの質感から受ける印象の違い ・材料の特性-材料の加工についての方法について ・使用する用具の機能 </div> <p>○材料の活用方法や表現方法を生かし、remake する素材にどのように補い restyle を生み出していくか考える。</p>		ア	ア
3 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>restyle のための構想を練る</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>restyle のための構想を練る</p> </div>	<p>○家庭から持参した remake したい素材について、元の意味を考え、どのような restyle にしたいか構想を練る。</p> <p>○これまでの既習事項や表現方法の効果の学習を生かし、他者の構想について批評的な視点でアドバイスを行っていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>手だて B 考えた構想の表現を表すための手段についての妥当性について、批評的な視点を持つ。また第三者が、どのような印象を持つかについてリサーチする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>restyle のための構想を深めるための批評的な視点を支える事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩-色によって感じ取れる印象（素材の色と補うものの色の比較） ・形態-新たな使用ができる形になっているか ・質-素材通しの質感から受けるイメージの関連性について ・材料の特性-活用の方法について ・材料の感情的な要素-個人によって受け取るイメージについて ・使用する用具の機能 ・restyle 後の造形としての美しさについて </div>	イ	ア	イ
4 5 6 7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>restyle を目指し、制作しよう</p> </div>	<p>○材料や用具、表現方法の特性を考え構想を確定させ、制作の順序などを総合的に考えながら制作計画を立て、制作を行う。</p> <p>○用具の使用法や元の素材と加工した材料の組み合わせや処理の仕方について学習を深めながら制作を進めていく。</p> <p>○仕上げの効果について学習しながらより美しい作品になるため</p>		ア	

		の工夫を考え制作する。				
8	展示と相互鑑賞をする	<p>○元の素材と新たに生み出した作品について解説をしながら、他者の作品を相互に鑑賞をする。</p> <p>○作品についての、効果や restyle の価値について鑑賞カードに自らの考えをまとめる。</p>	ア			ア

7 本時案

(1) 本時の目標

元の素材や付け加える材料の特性や効果を考え、組み合わせや加工法についての構成や装飾を考え、表現の構想を深め構想カードにまとめることができる。

(2) 本時の展開 3 / 8 時間目 (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
1 前時の学習を振り返り本時の学習に生かす考えを確認することができる。	<p>○参考作品からどのような restyle の案が考えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 元の素材を別の材料で補うことで、新たなスタイルの形を生み出す 既習事項を元にした表現方法や効果について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 色彩-色によって感じ取れる印象の違い 質-素材通しの質感から受ける印象の違い 材料の特性-材料の加工についての方法について 使用する用具の機能 </div>	【観察】
ものを生まれ変わらせる新たな可能性を探ろう		
2 元の素材を様々な視点から見て、どのような remake が可能か考えを記入することができる。	<p>□用意した素材をどのように remake することで新しい命をもったものにすることができるか考えてみよう。</p>	【観察／構想カード】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【生徒の予想される考え (例)】 準備した元の素材が厚めの本</p> <p>(前時) 厚みがあるので、曲がらない、ものを置くことができる。表紙と中の紙を分けることができる。</p> <p>(本時) ①表紙と背表紙を使って箱を作る②大事なものを入れる③厚紙で壁を作る。</p> </div>		
3 他者の構想を知り, remake の材料や restyle の形態や加工についてのアドバイスを考え, 伝えることができる。	<p>□構想カードを読み, restyle のための見るポイントから, 自分の考えを記入してみましょう。</p>	【観察／構想カード】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Restyle のための構想を深めるための批評的な視点を支える事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 色彩-色によって感じ取れる印象 (素材の色と補うものの色の比較) 形態-新たな使用ができる形になっているか 質-素材通しの質感から受けるイメージの関連性について 材料の特性-活用の方法について 材料の感情的な要素-個人によって受け取るイメージについて 使用する用具の機能 restyle 後の造形としての美しさについて </div>		<p>・肯定的だけでなく、ねらいと比較し考えられる案を述べられるよう着目させたい。</p>

	<p>○自分の構想に対してどのような意見が得られましたか。</p> <p>・構想カードの記入から、参考となる意見に印をつけていきましょう。</p>	
	<p>どの方法が最も美しい restyle になるか考えよう</p>	
<p>4 他者のアドバイスを読み、取り入れたり、生かすものを確認しながら、自らの構想を深めることができる。</p> <p>5 授業の取り組みを振り返ることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 構想の変更すべき点やより美しいと感じる形をつくるために、材料や道具の選択をしていきましょう。</p> <p><input type="checkbox"/> 本時を振り返り、学習のまとめを記入しましょう。</p> <p><input type="checkbox"/> 次の時間では、構想を確定させ制作過程を考えます。</p>	

【生徒の予想される考え（例）】

補う素材として、紙を考えていたが耐久性がない。板のほうがいいのではないか。

本の中に、大切なものを入れることから、鍵をつけたほうがいいのでは？という意見をもらった